

徳島県民がんフォーラム

細胞傷害性抗癌がん薬は、がん細胞に作用し、がん細胞を殺す。これががん細胞が増えるのを抑える。ホルモン薬はホルモンに働き、体のだるさや吐きがある。

岡本氏 生活の質を保ち治療

き掛けで、がんの増殖を抑制する効果がある。細胞傷害性抗癌がん薬は、がん細胞を殺す。がん細胞が増えるのに対し、薬物療法による副作用は時期も症状もさまざまであり、全ての人が出ることは限らない。手術や放射線治療が局所的な治療であるのに対し、薬物療法はより広範囲に治療効果があり、投与方法は飲み目を行う。手術や放射線治療と違って、がんの増殖を抑制する効果がある。金での患者の免責が治らなければ、がん細胞を殺す。がん細胞が増えるのを抑える。ホルモン薬はホルモンに働き、がん細胞が増えるのを抑える。がん細胞のQOLに影響を与える。がん細胞のQOLに影響を与える。がん細胞のQOLに影響を与える。

がん薬物療法と休調管理について



岡本氏

早めに一度「人生会議」をしましょう

「がんとうまく付き合う患者術・生活術」について

岡本氏

学び、知り、克服を

2021年度「徳島県民がんフォーラム」(県がん診療連携協議会など主催、徳島大病院がん診療連携センター、徳島新聞社共催)が10月11日、徳島市の徳島大病院日亜ホールWhiteで開かれた。「がんとうまく付き合う患者術・生活術」をテーマに専門医ら5人が講演し、

がん相談支援センターや薬物療法、最新の手術療法として普及しているロボット支援手術などについて解説。事前に募った読者からの質問に答える形でパネルディスカッションも行われた。講演とパネルディスカッションの要旨を紹介する。

開会あいさつ 金山氏

がんとうまく付き合う患者術・生活術をテーマにした今回、がんとうまく付き合う患者術・生活術を行います。

5人の医師や看護師に講演していただきます。がんになった際の心構えや相談先、情報の集め方などについて紹介します。その後、一般の読者から質問に答える形でパネルディスカッションを行います。がんとうまく付き合うという観点から、いろんな工夫を皆さんと共有できればと思っております。

寺嶋氏 話し合い希望を共有

に「本人と話ができるならきっと」とお書きなさったと家族らが予想した推定意識を基に、今後の治療方針を決める。

最新のがん手術療法～ロボット支援手術～

がんの手術療法は大きく分けて内視鏡手術、開放手術、鏡視下手術がある。このうち支援手術だ。これはロボットが使った手術で、主に腹腔鏡手術や胸腔鏡手術を使われている。

その手術支援機器として主に使われているのが米国で開発された「ダビンチ」だ。日本では2010年に発売され、2012年に前立腺がん、16年に腎細胞がん、そして18年には多くの手術で採用されるようになり、今やロボット支援手術がどんどん普及してきている。

ダビンチを使った手術は患者の体内にポートを挿入し、カメラやアームなどの機械を入れて操作する。カメラは鮮明で精密な3次元画像であり、コンピューターを使って両手両足でアームを操作する。中で鉗子やハサミが動く。鉗子の先には関節機能が付いており、人間の手よりも可動域が広い。手ぶれ防止装置があり、手筋で動作を安定しており、手筋で動作

金山氏 痛み軽く早い回復

前立腺がんの根治的前立腺摘除術の場合、以前は開腹手術でへそ下を切るといふ難快適に、安全、確実な手術ができる。術後週間ぐらいで退院でき、傷の跡も6ヶ月たつほどほどの分からなくなっている。現在、徳島大病院では前立腺がんの手術で開腹手術や腔鏡手術を行っており、手術がどこでどこで行われる。

ロボット支援手術は患者にとって体の負担が少なく、手術の痛みも軽い。術後の回復が早く、早期退院、早期回復が可能で、早期退院、早期社会復帰が実現できる。術者にとってもマーサンコン、手術の負担が少なく、手術のレベルが向上しており、ロボット支援手術は今後もますます発展、普及していくだろう。

がん患者の3割が2歳から64歳までの働く世代で、このうち3割が仕事を辞めている。「職場に迷惑がかけたくない」といった精神的な側面などによるものだが、どうぞ大事だ。

徳島市民病院の相談支援センターは、面談または電話で相談を受けており、匿名でもできる。利用してほしい。家族は「第2の患者」ともいわれ、不安や生活の変化がストレスになることもある。一人で抱え込まず、誰かに助けを求めて、話をしたりすることができる。

医療費が心配「緩和ケア」は何とかなく、さまざまな問い合わせに対応しているので、どんなことでも相談してほしい。

がん患者の3割が2歳から64歳までの働く世代で、このうち3割が仕事を辞めている。「職場に迷惑がかけたくない」といった精神的な側面などによるものだが、どうぞ大事だ。

がん相談支援センターは誰でもどんなんでも、無料で利用できる。一度悩まずに気軽に相談してほしい。

岡田氏 悩まず気軽に利用を

思春期・若年成人期の世代である「AYA世代」のがん治療では妊娠する力が低下したり、失われる妊娠する力が低下したりすることがある。将来の妊娠のため、徳島県には「(卵子や精子の採取・凍結など)妊娠性温存療法」にかかる費用の一部を助成する制度がある。相談支援センターは申請の相談にも対応している。

がん相談支援センターは誰でもどんなんでも、無料で利用できる。一度悩まずに気軽に相談してほしい。

徳島県のがん相談支援センターについて



まずは働き続けられるかを相談センターと一緒に考え、サポートしていく。在宅療養に必要な介護保険の申請などの相談にも乗っている。

がん患者やその家族がつらい気持ちが解くなることもあるので、身近な人に話すのが難しいときは「がん相談支援センター」を利用してほしい。家族は「第2の患者」ともいわれ、不安や生活の変化がストレスになることもある。

一人で抱え込まず、誰かに助けを求めて、話をしたりすることができる。

がん患者やその家族がつらい気持ちが解くなることがあるので、身近な人に話すのが難しいときは「がん相談支援センター」を利用して、不安や孤独感を少しでも和らげる場になつたり思つる。現在はオンラインで開催している患者会もある

治療費軽減へ制度を活用

がん相談支援センターは誰でもどんなんでも、無料で利用できる。一度悩まずに気軽に相談してほしい。

がん相談支援センターは誰でもどんなんでも、無料で利用できる。一度悩まずに気軽に相談してほしい。

放送スケジュール	放送日	チャンネル	放送エリア
11:00-13:00 20:00-22:00	12月7日 12月14日	けーぶる12チャンネル 121ch(12ボタン)	県内全域
11:00-13:00	11月16日・23日 11月18日・25日	ケーブルテレビ徳島 111ch(11ボタン)	配信エリアのみ
19:00-21:00	11月20日・27日		
12:00-14:00	11月21日・28日		

(注) 特別番組や編成の都合等によりやむを得ず変更となったり、放送できない場合があります

【紙面編集】林啓二

質問 家族にがん患者がいた場合はどのようにサポートすればいいのか。

西村氏 がん治療は長期戦になることが多いので、その時々で患者がどう考えているのかを知ることが大事だ。家族からすると「頑張れ」と応援しがちになるが、患者にとってはもうこれ以上頑張れないと思う人もいる。家族会議などで把握し、患者が望む治療ができるだけ行える環境をつくることが大事にな

る。質問 がん薬物療法とはどのような治療なのか。

岡本氏 がん薬物療法には飲み薬、注射、点滴などがある。病気や進行具合によって使う薬の種類や期間はさまざまだ。治療前には必ず医師や薬剤師から、どういう治療をするのか説明がある。治療を受ける場合、血液検査などをして薬の効き具合、副作用などを定期的に調べながら治療を受けてもらうとい

う流れになる。

質問 がんにかかると、平均の治療費はどれくらいになるのか。

岡田氏 年齢や収入により自己負担額が変わる高額療養費制度を活用してほしい。限度額適用認定証の交付を受けていれば限度額までに軽減され、交付されていない過去2年間は払は戻しを受けることが可能だ。さらに、多数回該当(直近1年間に3回以上、高額療養費に該当する場合)とされると、

した場合、4回目から限度額が軽減)や、世帯合算の制度もある。ただし、保険適用外の治療費は対象にならず、入院した場合は医療費とは別に差額ベッド代や食事代などが必要になる。

質問 在宅終末期医療の在り方について知りたい。

寺嶋氏 新型コロナウイルスの影響で、在宅で終末期医療を希望する人が増えている。徳島市内であれば、訪問診療の専門クリニックなどが充実しているので、かなり深刻な病状の患者でも、在宅医療ができるようになっている。なので無理だと思つても、がん相談支援センターなどで相談すれば、何か道が開

けることと考えている。

質問 ロボット支援手術のメリットとデメリットを教えてほしい。

金山氏 メリットは繊細かつ正確で、安全な手術が可能になるので患者の体の負担を少なく

できる。術者にとっても、座つて操作できるので快適な手術が可能になる。デメリットはやはり導入費用。機械や器具の値段が高いので、全ての病院が導入するのは難しい。もっと普及して安くなるのを期待している。

質問 家族にがん患者がいた場合はどのようにサポートすればいいのか。

西村氏 がん治療は長期戦になることが多いので、その時々で患者がどう考えているのかを知ることが大事だ。家族からすると「頑張れ」と応援しがちになるが、患者にとってはもうこれ以上頑張れないと思う人もいる。家族会議などで把握し、患者が望む治療ができるだけ行える環境をつくることが大事にな

る。質問 がん薬物療法とはどのような治療なのか。

岡本氏 がん薬物療法には飲み薬、注射、点滴などがある。病気や進行具合によって使う薬の種類や期間はさまざまだ。治療前には必ず医師や薬剤師から、どういう治療をするのか説明がある。治療を受ける場合、血液検査などをして薬の効き具合、副作用などを定期的に調べながら治療を受けてもらうとい

う流れになる。

質問 がんにかかると、平均の治療費はどれくらいになるのか。

岡田氏 年齢や収入により自己負担額が変わる高額療養費制度を活用してほしい。限度額適用認定証の交付を受けていれば限度額までに軽減され、交付されていない過去2年間は払は戻しを受けることが可能だ。さらに、多数回該当(直近1年間に3回以上、高額療養費に該当する場合)とされると、

した場合、4回目から限度額が軽減)や、世帯合算の制度もある。ただし、保険適用外の治療費は対象にならず、入院した場合は医療費とは別に差額ベッド代や食事代などが必要になる。

質問 在宅終末期医療の在り方について知りたい。

寺嶋氏 新型コロナウイルスの影響で、在宅で終末期医療を希望する人が増えている。徳島市内であれば、訪問診療の専門クリニックなどが充実しているので、かなり深刻な病状の患者でも、在宅医療ができるようになっている。なので無理だと思つても、がん相談支援センターなどで相談すれば、何か道が開

けることと考えている。

質問 ロボット支援手術のメリットとデメリットを教えてほしい。

金山氏 メリットは繊細かつ正確で、安全な手術が可能になるので患者の体の負担を少なく

できる。術者にとっても、座つて操作できるので快適な手術が可能になる。デメリットはやはり導入費用。機械や器具の値段が高いので、全ての病院が導入するのは難しい。もっと普及して安くなるのを期待している。